

令和4年度第2回 家庭教育講座 事業報告

日 時：令和4年8月27日（土） 10:00～11:20

場 所：本校尚志館

参加者：講師1名、職員1名、PTA会員22名

講 演 「がんと生きる 暮らしを支える」

講 師 医療法人宮崎博愛会 さがら病院宮崎

メディカルソーシャルワーカー

よねだ ちえみ

米田 智恵美氏



【講師のご経歴】

- 1966 宮崎県西都市生まれ
- 1984 宮崎県立妻高校卒
- 1989 国立都城病院附属看護学校卒
淀川キリスト教病院放射線科（看護師）勤務
- 1995 阪神大震災後、宮崎へ
古賀総合病院（看護師）
- 2006 宮崎市役所障害福祉課（認定調査員）自立支援法スタート
- 2010 九州保健福祉大社会福祉課卒（社会福祉士免許取得）
カリタスの園 乳児院
（看護師で勤務するも体調を壊し、以後、看護師勤務なし）
- 2011 西都市役所（健康管理課）勤務中に、3.11 東日本大震災
4月1日より 宮崎県難病医療連絡協議会（神経難病）難病医療調整員
- 2013 ブレストピア宮崎（なんば）病院
地域医療連携室スタート（MSWとして勤務）

<主な役職>

- 日本ALS協会宮崎県支部事務局長
- 宮崎県難病団体連絡協議会副会長
- 宮崎県地域両立支援推進チーム（両立支援コーディネーター）



講師の横顔

5人のお子様を育ててこられたとのこと。ちなみに4人目5人目は双子だったそうですよ！

また、上のお二人は本校卒業生で、米田さん自身も家庭教育などのPTA活動をされてたとのこと。「まさか、自分が講師の立場で戻ってくることになるとは！」と笑顔でお話しされていました！

講演概要

2人に一人はがんになる時代。そうした中、メディカルソーシャルワーカーとして、多くのがん患者やその家族と向き合ってきた米田さんが、①メディカルソーシャルワーカーのお仕事、②がんになるとお金がかかり生活と治療の両立が必要になってくること、③支援のリアルな現場のことなど、事例を交えてざっくばらんにお話しいただきました！参加者は自分の身の回りの経験なども思い返しながらか熱心にお話を聞いていました。

①メディカルソーシャルワーカーというお仕事

がん患者さんは、病気の状況や年齢、仕事、家族や経済状況などその背景は様々。そうした皆さんが抱える課題を解決するため、必要な調整や援助を行い、自立した生活を送れるよう寄り添った支援を行っています。

②がんにかかるとお金がかかる

治療により休職すると大きく収入減となる一方、治療費だけでなく、通院交通費、ウィッグ購入、家事ができなくなることで発生する支出…、その状況になってみないとわからない支出も増えます。こうした状況を支える保障制度や支援をご紹介したり、手続きのサポートを行っています。

③生活が続かなければ、治療も続かない！

がん患者の3人に一人は就労世代。仕事と家庭それぞれで大きな不安を抱えることになる患者。仕事を辞めない、辞めさせない、がんになっても働き続けられるように支援するのが療養・就労両立支援コーディネーター。患者と病院と職場をつなぎ、患者の働くことへの思いをサポートしています。

④「ママのウィンク」

講演の最後は、乳がんを患ったお母さんとその子供たちを描いた絵本の読み聞かせ。笑顔とウィンクのステキなお母さん、乳がんになったことをどうやって子供たちに伝えようか…。北高PTAの皆さんも一度手に取ってみては？

講師メッセージ “家族の笑顔のために、年に1回、がん検診を受けましょう！”

参加者の声

- ・「保障制度など知らないことがずいぶんあることに驚いた。」
- ・「不安な中たくさんのお話を聞き判断しなくてはいけないので、ソーシャルワーカーの方の存在は大きいと感じた。」
- ・「相談することの大切さなど、いろいろなことを感じられた。」
- ・「がん検診を忘れずに受けたいと思います。」
- ・「他人事ではないと思った。」

【担当】第2学年家庭教育委員

今後も、家庭教育事業への積極的な参加をお願いします。

百田東子、興梶淳子、布施智香、北上厚子、中崎直美、牧幸洋、甲斐孝子、永田由美子、白尾香織



Pink Ribbon